

# こどもの城 アドベンチャー

## 施設内に隠されたカードを探す ラリー形式のゲーム

『こどもの城アドベンチャー』は、施設内のいろいろなところに隠されているカードを見つけ出す、“ラリー形式のゲーム”で課題をクリアしていきます。これに、“ごっこ遊び”の要素を組み合わせて、みんなでひとつの“世界”を共有できるようにしています。

一人ひとりが課題をクリアした達成感を得るとともに、みんなでひとつの“世界”を共有することで、“ふれあい”の輪を広げていきます。ゲームに参加しているうちに、自然に“仲間”意識が生まれます。

施設内の廊下、階段、ロビーなどの壁面や床、天井にはられているカードを探し出す“ラリー形式のゲーム”と、ひとつの世界観を設定した“ごっこ遊び”を組み合わせ、施設全体を使って遊びます。繰り返し楽しめるように、次々とレベルアップした課題に挑戦できるようにしています。参加者同士がふれあう場もゲームのなかに設けてあります。

### ●『めざせ！5つ☆シェフ〜クッキングへの道〜』 料理の道を究めた“クッキング(王)”になるために

子どもたちは一流のシェフをめざして、料理修行の旅にでます。自分が選んだ“料理カード”に記された“食材カード”を見つけ出す旅です。宝探し、冒険遊び、収集遊びの要素が組み込まれていて、子どもたちの遊び心を刺激します。

“ごっこ遊び”の要素も加味して、たくさんの料理をマスターすると、シェフの

ランクもアップ。最高の名誉“クッキング(王)”をめざします。ランクアップすると、“シェフドニア王国”に出店できます。

#### □遊びの“世界”を設定——“ごっこ遊び”□

おいしいものが集まった“シェフドニア王国”。料理の道を究めた“クッキング(王)”はみんなのあこがれ。いろいろな料理作りの修行をして腕を磨き、“クッキング(王)”をめざそう——子どもたちは、一流のシェフをめざして食材を探す“ラリー形式のゲーム”に参加します。

実際に料理は作りませんが、“シェフドニア王国”という設定が、ゲームにもうひとつの楽しさを付け加えます。

#### □準備□

プログラムを始める前に、施設内の各所に“食材カード”をはっておきます。子どもたちが探すものなので、かたんに見つけられても、反対にだれにも見つけられないものでも困ります。天井から床まで360度見回して場所を探し、適当なところを選んではっていきます。何回か実施するうちに、コツがつかめてきます。



段差などがあるところでは視線は自然に足元に向けられ、上のほうに目が向きません。安全に配慮しなければなりません。視線の盲点“が場所選びのひとつのポイントです。他のちらしにまぎれておいても、意外に見過ぎてしまうようです。

#### □受付□

受付は、“シェフドニア王国”のシェフ養成所。先輩シェフは、わかりやすくゲームを説明し、やさしく修行に送り出します。ゴールのときは、厳しくもあたたかいまなざしでチェック。修行の成果をたたえます。

“ごっこ遊び”のリアリティーを高めるために、受付の装飾やスタッフの服装などは、“シェフドニア王国”の住民らしいものにします。



イラスト：いがき けいこ

#### □遊び方□

『めざせ！5つ☆シェフ』は、“料理カード”に記された食材を探すゲームです。

受付で遊び方を説明。参加者に、料理チェックシート・参加者カード・えんぴつ・下敷きを渡します。参加者は、用意された“料理カード”のなかから作りたいものを選び、書かれている5つの“食材カード”（にんじん、ケチャップ、たまご、肉など）を探して、料理を完成させます。料理は、和食・中華・イタリアン・ランチ・デザート5分野。

“食材カード”がはってある場所のヒント（受付ロビー、廊下など）とあわせて、はっていない場所（事務室のなか、使用中の部屋）などを伝えます。通行止めの道路標識と同じように、この先にはありませんというマークをはっておきます。

“食材カード”をみつけたら、そこに記されている暗号を書き取ってきます。5つ見つけ出して正解すれば、スタンプをもらえます。もう一度挑戦したければ、別の“料理カード”を選んで、食材さがしにいきます。

料理の分野に関係なく、5つのスタンプを集めれば“5つ☆シェフ”に、同じ分野の料理で5つのスタンプを集めれば、“○の達人”になれます。“達人”になると、王国に自分の店をだすことができます。

さらに、5つの分野すべての“達人”になると、シェフドニア国王から直々に“クッキング(王)”として表彰され、肖像写真が飾られます。そして、城の近くの特別なエリアに、店をだせます。

## ●繰り返し遊んで楽しめる“しかけ”

繰り返し遊ぶ——遊びをより魅力的なものにし、そこでの体験や学びを深化させます。『めざせ！5つ☆シェフ』では、繰り返し遊んでも、飽きさせない工夫をしています。

“料理カード”は、5つの分野（和食・中華・イタリアン・ランチ・デザート）で、各5種類ずつ計25種類を用意。“食材カード”は、ある程度共通するものにし、特殊な食材は選ばないようにします。

会場が広い場合は、肉類、野菜・果物類、調味料類というように、グループ分けして“食材カード”をはります。探しやすくすると同時に、ヒントも与えやすくなります。

スタンプの集め方は、ランダムに5種類という方法と分野ごとに5種類という方法の2つを用意して、参加者の自由度を増してあります。繰り返し参加して、だれもが少しずつ上のランクへ進めるようになっていきます。

## ●“ふれあい”を促進する工夫

ランダムに5種類の料理を完成させると“5つ☆シェフ”、同じ分野の5種類の料理を完成させると“○○の達人”、すべての分野の“達人”になると、最高の名誉“クッキング(王)”の称号を手にすることができます。

これらの称号は、みんなの前で少し大げさな演出で授けます。最高位の“クッキング”は、国王自らが表彰して、記念撮影。写真を額に入れて、壁に飾ります。参加している子どもたちの間に、目標と一体感が生まれます。

ゴールの横の壁には、シェフドニア王国の地図があり、“○○

### ■用意するもの■

料理カード（集めなければならない食材名が書かれている）／食材カード（暗号が書かれている）／料理チェックシート（食材の暗号を記入）／参加者カード（クリアした“料理”をチェック）／えんぴつ／下敷き／賞状／クリアしたときに押すスタンプなど

※どこに、なんの“食材カード”をはったか記録しておく地図のようなものを用意しておく、子どもたちにヒントを与えるときや撤収するときに便利です。

の達人”になると、自分の店をだすことができます。“クッキング(王)”になると、城の近くの特別な場所に出店できます。「あんなお店を私も出したい」「私もお店をだそう」と、“ごっこ遊び”の地図のなかで、子どもたちの関係が深まります。

知らない子ども同士が、同じ“ごっこの世界”で遊ぶことで、交流が生まれてきます。“自分たちだけの世界”——そんな気持ち、子どもたちのつながりを深めていきます。

“ごっこ遊び”の体裁をとった“ラリー形式のゲーム”なので、“ごっこの世界”をじょうずに演出することが大切です。運営するスタッフの衣装、受付の環境設定などのほかに、○○になりきる（演じる）ことも必要です。

ともすれば、ただの記号集めになりがちなウオークラリーに、“ごっこ遊び”の世界観を持ち込むことで、料理を作るワクワク感を作り出します。初めて会った子どもも「あそこに○○の食材があったよ」と教えあったり、交流が生まれてきます。“食材カード”がはってあるエリアを巡回するスタッフは、参加者のようすをみながら、「一緒に探してみようか」「近くにあるような気がする」など、交流のきっかけ作りをします。

## “狩り”をテーマに『エキサイト・ハンティング』

“ハンティング(狩猟)”をテーマにしました。子どもたちはハンターになって、ジャングル(施設内)のなかに潜んでいる猛獣を追いかけます。

『エキサイト・ハンティング』では、見つけた動物の名前をビンゴカードに記入して、ビンゴを完成させるとクリアになります。『めざせ！5つ☆シェフ』とは、カードを見つけたあとの課題処理の方法が異なります。

受付は、探検隊の基地です。“探検隊の隊長”が遊び方の説明をしたのち、参加者にビンゴカード・参加者カード・えんぴつ・下敷きを渡します。頭文字が同じ“動物カード”を見つけ出し、ビンゴカードに記入していきます。レベル1は、3×3のビンゴです。

たて、よこ、ななめ——いずれかのビンゴが完成したら、基地にもどって答えあわせをします。続けたい人は、レベル2(4×4)、レベル3(5×5)へと進みます。レベル3をクリアすると賞状《冒険の証》がもらえます。

“動物カード”はだれもが楽しめるように、はる場所を工夫します。レベル3に出てくる動物は、どこにはってもかまいませんが、レベル1の動物は、あるエリアのなかに限定します。小さい子どもでも探しやすくするためです。レベルアップするにしたがって、範囲を広げて難易度をあげていきます。

取り上げるテーマや課題処理の方法の違いによって、“カード”の作り方、“カード”をはるときのグループ分けやエリアを工夫します。

ハンティングしていると、“ジャングル”のなかで他のハンターと出会います。「ライオンはあっちにいたよ」などの情報を交換したり、ときには手分けして一緒に探す子どもたちもいます。ハンター同士の連帯感が生まれ、上級レベルに挑戦するときには、一緒にスタートしていきます。

特典を用意しておいてビンゴが完成するごとにゲットできるようにして、それを組み合わせることで何かができるようにしておくと、続けて参加する意欲もまします。『エキサイト・

ハンティング』では、賞状《冒険の証》を授与しました。

子どもたちが主役のゲームですが、親子での参加もできます。“動物カード”探しが始まると、親も一緒に探すようになります。さきに見つけても、子どもが気づくまで見守ってくれます。

こどもの城アドベンチャー

エキサイトハンティング 参加カード Lv.1

ト	カ	フ
ヘ	ラ	ゴ
ゾ	ク	シ

### □ビンゴカード□

ビンゴカードは、レベル1(3×3)、レベル2(4×4)、レベル3(5×5)の3種類あります。“動物カード”を見つけたら、頭文字と同じ字の**ます**がビンゴカードにあるか探して、その**ます**に動物の名前を記入していきます。

**ます**の文字の並びを変えると、別のビンゴカードになります。探さなければならない動物も、変わってきます。

レベル1から順にチャレンジしていきます。